

秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	☐ 令和 年度 第 回 本部会			
	☐ 令和 年度 第 回		プロジェクトチーム	
	☒ 令和 5 年度 第 2 回 学校施設との複合化		ワーキンググループ	
開催日時	令和 5 年 12 月 25 日 (月) 午 前 10 時 ～ 午 前 11 時 9 分			
開催場所	教育庁舎 3 階大会議室 A			
出席者	防災課長		生涯学習課長	高齢介護課 課長代理
	保育こども園課長		こども育成課長	教育総務課長
	教育総務課 課長代理		教育総務課 施設管理担当	行政経営課長（グループリーダー）
	事務局	行政経営課 課長代理		
議 題	1 学校施設の一体的整備に関する指針（案）について			
	2 今後のワーキンググループ会議の進め方について			
	3 その他			
配付資料	資料 「みんなで考えるみらいの学校整備指針」			
	参考資料 学校施設との複合化に向けた検討スケジュール			
会 議 概 要				
1 学校施設の一体的整備に関する指針（案）について				
資料に基づき、教育総務課長から説明				
資料 1 に基づき、教育総務課長から説明				
≪説明概要≫				
・ 本指針を、今後地域と一緒に未来の学校のあり方を検討するための基盤としたい。				
・ 学校施設との複合化が想定される施設には触れているが、あくまでも学校施設のあり方を中心に策定するものである。				
・ 複合化する機能は、地域によって様々であり、本指針で決めることではないと考えている。				
・ 大まかな整備年度を示したが、どの建物も公共施設保全計画の耐用年数まで最大限活用することを前提としている。				
・ 今後、所管課と協議を重ね、令和 7 年度末に策定を予定している構想では、地区ごとの複合化の考え方を整理する。				
① 児童ホームについては、プレハブで建てて、児童生徒数がさらに減少する時期に空き教室へ入れることなどを考えていた。				
→ 私見ではあるが、学校施設の中に明確に位置付ける方がよいと思う（教育総務課長）。				
② デジタル化や新たな学びのスタイルにより、単位教室の面積が増えるので、床面積の削減はあまり期待できないか。				
→ 特別教室をこれまでの 1 教科 1 教室ではなく、多目的化することによって面積を削減したい（教育総務課長）。				
③ 公民館の方向性を決定する際、方針や構想のような成果物は想定しているのか。				
→ 現時点では想定していないが、今後、それを含めて協議していきたい（生涯学習課長）。				
④ こども館の機能移転について、秦野駅北口にぎわい創造関連事業と連携して検討しているが、更新年度の令和12年度までには、実現する見込みである。				
また、児童館については、地域コミュニティの拠点の観点から、令和 6 年度に全地域との意見交換を予定しており、その結果をもって方向性を決定したい（こども育成課長）。				
⑤ 防災拠点のあり方については、地域ごとに考えなければならない。学校がなくなった場合に代替場所があるかどうか、また、代替場所で避難想定者数を収容できるかどうかなど様々な課題があるので、各所管課と連携して考えていきたい（防災課長）。				

⑥ 保育ニーズは横ばい状態であり、来年度、待機児童が出る可能性もある。令和 6 年度の「子ども・子育て支援事業計画」の改定に合わせ、見込み量などを把握しながらこども園の方向性を決めていく（保育こども園課長）。	
2 今後のワーキンググループ会議の進め方について	
事務局から説明	
≪概要≫ 複合化が想定されるそれぞれの施設の方向性について具体的な議論をするため、このワーキンググループから対象課を絞った形とし、頻度を高めて開催していく。その結果を踏まえて、複合化に関係する施設全体のスケジュールをブラッシュアップしたいと考えている。	
3 その他	
今後のスケジュールについて、事務局から報告	
備考	